

O B 会 報
才三号

横浜国立大学

ワンダーフォーゲル部
O・B会発行
1965.5.1

O B 会五年目を迎えて

会長 松本正雄

O B 会創設満四年を迎え、新たに世代を一つ異にする新 O B 会員諸君!! おめでとう。歴史の新しい O B 会は、第一期生は社会人生活五年目で、もう中堅社員の仲間入りをして公私共に、一つの転機の時期であるが、O B 会自体も又、大きな曲り角でもある。

この事は、先の会報にも二、三、言及されていたが、三月末の久々の幹事会でも議論された。何が曲り角なのか。それは、

一 会の設立趣旨、目的がアイマイで、自覚し得ない。従って会費納入や、活動が不活発。

二 社会人であることの制約。遠く地方に散った人々との交流がなく、勤務上のことで会の集まりに参加しにくいこと。更に仕事や結婚などで疎くなっていく人々。

三 新しく全く顔も知らず、かつて行を共にした事もない世代の人々が、入会

してきて、ともするとこれから先学内の同総会化して、ますます会の性格が不明となる

等であるが、一については根本的な欠陥であって、将来ますます問題となろう。

今迄の活動を考え、先の幹事会では、一部には会の解散論まで飛び出し、実体の貧弱さを露呈した。そこで建て直し策として、当会報にもその決論が、載せられると思うが、会員諸君にも妙案を出して貰いたい。只学生時代と異なり無責任な放言や行動は慎まないと会は成り立っていかない。

単に問題提起に終わり、何ら解決策のない悲観的な見方しか述べなかつたが、創設五年目を迎え、会員諸兄弟の会を盛り立てる力で、又ワンゲル創設以来の輝かしい努力で、他の運動部 O B 会にない、ユニークな魅力ある O B 会を造り上げる様に、皆で考えているのではないか。社会に出て皆各々公私共に忙しく、クタクタで、味気ないサラリーマン生活の中から、清新の気が溢れる楽しい O B 会を育て、奥さん子供一ダンナサニー恋人一皆で楽しんで参加出来る O B 会にしようではないか。

春 O B 会報告

会員制度の

新機軸と

組織変更

去る三月二十八日、清水ヶに於て O B 会が開催され、若干の決議がなされました。以下その模様を御報告致します。

出席者 嘉納、吉野、渡辺、米屋、斉藤伏、江崎、井上、白井、郡司、竹内、安部、跡部、

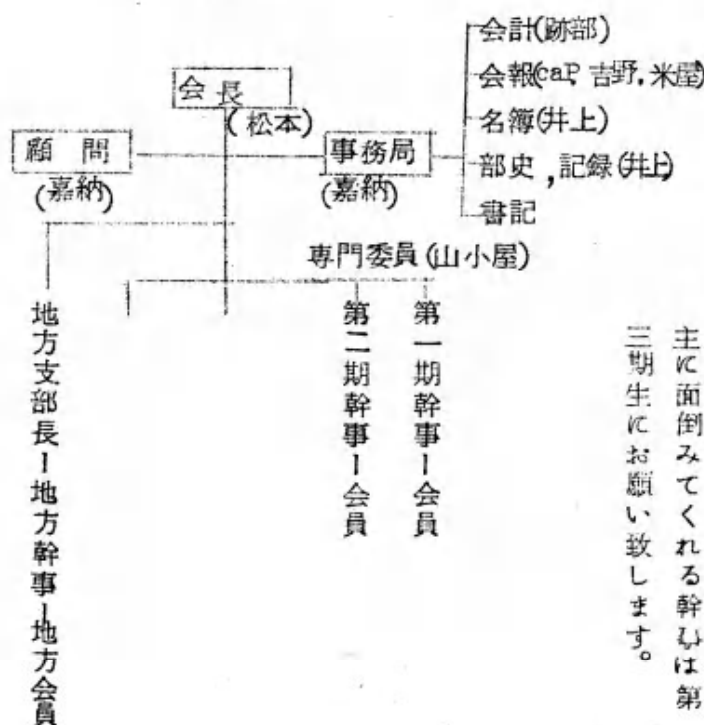
一 会員について 現在当 O B 会に所属しているながら、

地理的、その他特殊の理由により本会の行事にあまり積極的でない会員がごく一部ではありますが、生ずるのは残念なことであります。しかし、このため本会の活動面（一定の出席者がなくと決議出来ない等）及び財政面に於て支障が起るおそれがありますので、この際「準会員」を設けることに決定しました。即ち準会員は無料で終身、OB会名簿が送付されます。但し、準会員になる時に、一時金千円を徴収し名簿送付料等に充当します。又、スカイライン、会報、その他一切の通知はせず議決権もありません。詳細については会則により明文化されることになっております。

二 組織について いままで会長が全ての事務を行なっていました。このたび会長をこれら雑務からはずし、事務局を設けてOBの連絡その他

8/22 ~ 3/28 報告書		収入	支出	
8/22	残高	27,045	11/3 第2期幹事仮払	10,000
1/13	会費入金	26,000	" 山小屋建設仮払	5,000
3/20	"	11,000	3/28 第3期幹事仮払	10,000
"	決算利息	531	3/28 事務局仮払	5,000
"	39年度活動費 仮払金戻入	260	現預金残高	34,836
		64,836		64,836

第 1 図



全ての事務をとり行なうようにしました。事務局は役員に就き、局長には嘉納氏が選任されました。年々会員の増加に伴い、地方支部設置の声があつたが、とりあえず、四日市、大阪方面に設置することとし、早速当該方面には

たつきかけることと致しました。又、本会の組織についても、この道の専門家吉野氏の提案により図の如く整備されました。(図1参照)

三 山小屋準備委員会より報告。詳細は別項を御覧下さい。

四 本年度新OB会員として

には秋の総会にて会員となります。(敬称略) 岡本(日立造船)、諸角(同上)、矢島(佐世保重工業)、向井(三菱(油化)、龜井(キャノン)、錢浦(三菱地所)、片江(ヤマハ)、小玉(大和銀行)、谷合(パブコック日立)、所(横浜女子商業)、須賀、中村(日本ビストリング)、深尾(三菱化成)。尚今年度主に面倒みてくれる幹事は第三期生にお願い致します。

お願い致します。

五 会計報告

六 第二項にありますように、

OB会の組織がかなり変わって
きますが、これに伴う会則改

正は、秋季の総会で皆様の御
意見をうかがって充分検討し
た上で決定したいと思えます。
(跡部記)

かかりしナイトは我らがザ
ンバをリーダーとする若き
たくましく男性グループ、
確りせよと抱き起し……
(いいかげんにしろ)

理解し活用できるか否か
が米屋と我々の違いであ
る。

結婚特集 やあ おめでとう

新郎 吉田光志 (第一期、
通称親分)

新婦 女性一名

とき 三十九年十二月初旬

ところ 大磯 滄浪閣

なれそめ等は遠方にて詳か
ならず

なれそめは、今を去ること
〇年前、春らんまんの大菩
薩、こなた我らがザンバ君、

会社の仲間を引きつれてサ
ッソウたるリーダー姿、か

なた節子さんも友人数名と
のハイキング、折しも一天

にわかにかき曇り、降りし
きる雨は篠をつき、(この

悪天が今日の二人を結びつ
けたとは神のみぞ知ること)

ハテ困ったわいな、頂上を
極めるべきか、名誉ある退

却をすべきかとか弱き女性
パーティー思案に暮れてい

る折も折、天の助けか通り

式 司会 藤林「それでは

本日の媒配人である柴

田先生に御挨拶を……」

媒酌人 柴田部長

：：エー 二人が山

で結ばれたということ

は全くもって嬉しいこ

とでありまして、私も

長年山へ行っておりま

すが……

(みんなも是非山へ行

きましょう！)

列席者の感想

A 山は神聖な場所であ

る”という言葉は正

しかった。

B 山はロマンチックで

ある”という言葉も

正しかった。

C それらの言葉を正しく

蛇足 新婦節子さんは日赤

短大出身の白衣の天

使、二人で山へ行っ

たときなどはさぞ心

強いことでしょう。

それにちなんだわけ

ではないでしょうが

式場が 健保会館

とはシャレてますね

新郎 井田貞司 (第三期、

通称イダちゃん)

新婦 井田侑子 (旧姓鮎田)

とき 四十年三月二十一日

ところ 横浜集会所 (港の
見える立公園)

なれそめ 二人にとって今

年は五年目の春だそうだか

ら、そもなれそめはいつに

なるか皆さん各自お調べ下

さい。井田ちゃんは山と雀

友と競友を得べく、侑子さ

んもやはり何かを得べく期

新婦 米屋節子 (旧姓川原)
とき 四十年二月十四日
ところ 青山 健保会館
なれそめ そもそも二人の

せずして同時に入部、そして二人は何よりもすばらしき伴侶を得た。その後は一歩一歩山を登るが如く、今は天にも登る心地

式 司会 我々とはあまり縁のない新郎の秀才

同級生

媒酌人 黒沢学長

二人はワングルで結ばれ……

新郎井田君は私のゼミの出身でありまして明朗活発、学術優秀にして美男子、真面目で積極性があり文句なしの好男子であります。

新婦侑子さんは横浜国大音楽科を卒業し、美人で頭がよくおしとやかでしかもはつきりしておりやさしきよい奥さんになることと確信致します……（そのとうりデス！）

列席者の感想

静岡より僚友高橋俊吾を始めワングル多数列席

ワングルもボクネンジンばかりではなかったなあ（当り前、寝ホケてゐるのはアナタだけよ）

蛇足 祝詞があまりすばらしすぎるのでクスグったくて仕方のない山男連中、本当のことを披露せんとワングルの出番を今か今かと待ち構えておりましたところ、丁度時間となりましたテナワケでワングルのバクロ祝詞はカット、イヤ残念（ヤレ助かった！）

歌集分配の

お知らせ

トピックス

例年新二年生によって作成されたワングル歌集を約三十部程OB会の方にまわしてもらいましたので、希望者に分けたと思います。希望者は実費及び郵送費として十円切手四枚を同封して井上まで申し込んで下さい。

第一期桑原氏がこのたびめでたく結婚されることになったが、その披露会を五月二十九日にクリフサイドで、一期のOBが集まって開くことになった。ところがその参加条件が、かならず一人パートナー同伴とのことでどんな駒がとびだすか今から楽しみ。

生活の中で

どこにいても同じように時が過ぎていく。ワングルにおいても同じこと。その時の流れに参加したOB及び現役役の動行をいくつかひろっておこう。OBの言葉が少ないので現役女子の言葉もいくつかひろってみた。

○：夏の反省会で：山が好き
ではその風景の心へのうつり方が山行きの時と異なる間には今の活動形態には不満だらうなんてつぶやいてるものがはつきりしてればいた子がいた。また里行き大丈夫ですよねだって。

○：英連邦墓地：横浜の静かな丘の上に英連邦墓地がある。実に静かな散歩道、

十月のある日現役の一年をつれて行ってみた。その時こんな事を言っていた。

女が男にあまえ、男は女がいるが故にそれを利用して、この腕力の低下、そういうものが気になる。

○：大学祭(その一)

：部室で現役が、しやれこうべのうたを家でうたっても誰も感じてくれないのに、ダークダックスがうたったらいゝ歌だといわれてくさってるなんていゝながら、歌集のガリをきいていたら永田(明)と安部がひよっこりあらわれた。

○：大学祭(その二)：OB

総会が大学祭に行なわれ、山小屋の件、OB会のあり方等について、吉野町の志葉田屋で行なわれた。

なおその前に経済学部で

現役とコンパを行なった。

出席者は一期が嘉納、望月、

藤岡、吉田(和)、二期が

吉野、岩上、米屋、藤林、

塚原、宮崎、渡辺(一)、

斉藤(彦)、岩村、萩野、

倉田、三期が渡辺(享)、

井田、斉藤(大)、井上、

四期が跡部、竹内、斉藤(貞)、郡司、谷、永田、

安部、橋出、寺沢、原、

織田、牧原。

○：追コン：十二月五、六日

と丹沢青山荘で追出しコン

パが行なわれた。この時追

い出されたのが谷合、高須、

片江、養浦、三宅、亀井、

山田、金子、高橋(哲)、

時田、向井、羽島、諸角、

岡本、矢島、須賀、所、

佐々木、喜多村、小玉、

村瀬、木村、片野。OBの

参加者は嘉納、松本、吉野、

塚原、斉藤(彦)、白井、

江崎、金田、井上、郡司、

谷、跡部、谷上。

○：新年カルタ会：一月二日

例年のごとく現役、OB合

同で新年カルタ会を鎌倉の

光明寺にある蓮乗院で行な

った。カルタをやった後、

鶴ヶ岡八幡宮に参拝し今年

一年の幸せを祈った。参加

者は白井、井上、跡部、

谷上、斉藤(伸)、郡司、

永田(明)、安部、谷、織

田、斉藤(貞)。なおこ

の集いはOBの新年会をか

ねることに幹事会で申しあ

わせた。

○：学芸の火事：一月十三日

未明学芸学部が焼けた。火

元はワングルの部屋附近と

のことだがはっきりしたこ

とは不明。昔のようにコタ

ツは使用していなかったの

でワングルの火の気は考え

られないよう。この火事で

地図などが灰となった。

○：斉藤(伸)よりの便り：

学芸学部の火事については新

新聞にも大きくていていまし

たし、江角からも聞いてい

ましたが、火元が、ワング

ル附近であるというのは、

始めてで、びっくりしまし

た。禍転じて福となれば(

統合)幸いですが火元がワ

ングルに関係のないことを

祈っております。やはり公

共物で木造というのは恐い

ですね。私共の住んでいる

ホロ寮でもそのことは問題

となっております。そちら

には、できれば六月の総会

か、夏合宿の壮行会るとき

でも一度帰りたいと思っ

ておりますが、そう、うまく

いくでしょうか。十日程前

こちらでも二日にわたり、

吹雪がありました。珍しい

とのことですが、やはり、

さは一流です。それ以後はだ馬鹿みたいにヌクイ。一月二十四日

○：のぼり：三月三十一日東京駅で岡本、諸角両君を送った深尾作成の、のぼりは、ワングル新二年の手によってリーダー養成合宿に参加し、西丹沢地藏平のキャンブファイヤーにおいて炎とって夜空に舞い上った。

○：甘粕よりの便り：昨日新潟県の浦佐より帰ってきました。すっかり春らしくなっているのに、ちよっと驚かされました。浦佐はいつもより雪が多い為に三月三十一日までの営業が四月五日までのびて、スキー客をちよっぴり喜ばせてくれました。スキー学校がありました。入学して練習しましたが、神経がにぶいのかちよっぴり上手にならずがっかり……下手の横ずきだからとあき

らめています。四月二日

○：腰塚よりの便り：大部春らしくなってきましたがいかゞですか。社会人となつてから早二年が経過しましたが、なんの成果があがっていないと思うと年月のたつのが草すぎるのか、自分の能力がないのかうたがいなくなるよ。ところで先日スカイラインを送ってもらってどうも。最近のスカイラインは部活動の報告というよりは、各人の内的、心的問題、部のあり方等イデオロギー的文章が多くなって来たように思う。これが良いか悪いかは別としてはたして部員全部が毎日このような事項を考えているのか疑問に思えてくる。それに文の中に出て来る語も非常に抽象的に使っている日本人もどの程度理解しているかも疑問である。四

月八日

○：宮崎紘よりの便り：

「我が宿の境内（和歌山県の某寺に在住）の桜もチラホラから一べんに満開近くになってしまいました。レングが畔道に咲きレンギョウも黄色をいっほいにつけて居ります。

「初蝶を見たというまた

見ぬという」虚子

「蝶々の三つと思へど二つかな」蘇坤

「てやてふふや今神様の

まりついて」余子

こんな俳句がまさにびった

りするような昨今です。

―中略―

桜が終ると室生や長谷（初

瀬）の里は石楠花の花でいっ

ばいです。今年はこのつを撮

りに出かけようと思っていま

す。

ワングルも関西地区で集って何かやりたいと思えますが、

したいと思いながら個々孤立したままで考え、成長してゆくのが一番大切なことなのでしよう。我々は真に自由であるべきでどんな紐帯をも求めるべきでなく、それにしづられてはならないと思います。過ぎし日への懐古の情としてそれだけでいいのですね。

そういう意味でワングル0日会の会則なるものは不必要かとも思いますが、現実はい理的な運営を伴った機能集団でもあり、会則無しというわけにもゆかないでしょう。大学でのサークル活動、ワングルは特にこのようにあるべきだと僕も思います。部則てしばられた不自由人の後輩諸氏をしたくないと思います。貴兄には間違いない（誤解）ないと思えますが規則にしばられた不自由人とは何か紐帯を求めなければ居られない人、孤立した孤独な状態になれた

い人のことです。

「後略」。

友への手紙より

四月九日。

柴田部長との

懇親登山

このたび嘉納氏の発案によりOB会初めての試みとして柴田部長との懇親登山を計画中です。場所、期日は部長に決めてもらいますが、大体、東北地方、七月中旬―八月中旬頃でしょう。この山行は登高時間の記録を保持しようなどという不貞の族は入るを禁ずべき、ワングルに於てともすれば忘れ勝ちな深山と山の湯の良さをしみじみ味わりのんびりした山旅として企画するつもりです。心と時間的余のある方の同行を募ります。詳細は後日御報せ出来ると思えますが、嘉納氏に問い合わせればわかると思えます。

四十年 度

現役役員

主将 松本弘道 (工)

副将 白神逸夫 (経)

駒形桂子 (学)

マネージャー

服部七郎 (経)

OB係 林誠一 (工)

スカイライン

原稿募集

七月中旬発行予定の次号スカイラインの原稿を募集します。

題目 自由

締切 五月末日

原稿枚数 制限なし

送り先 東京都港区麻布

桜田町三八

八島明

ワングル資料の

発品回収

名簿作成に

関して

ワングル設立十周年を記念してワングル十年史を編さんする予定です。その為に過去のワングルに関するパンフレット、ノート、日誌、スカイライン等資料を収集中です。

六月に昭和四十年 度 の 名簿を作成致しますので、前年度の名簿の住所及び勤務先等に変更のあった人は、五月中旬に各期の幹事又は左記に連絡願います。

なお準会員希望者は申し出て下さい。

鎌倉市台七五 井上肇

(電 鎌六一五〇五一)

山小屋建設

準備委員会

経過報告

四期 郡司直樹

前号会報で松本会長から報告のありました山小屋建設の件につき、その後の経過報告を記すので、会員諸氏の批判、協力を仰ぎたい。

昨年十一月大学祭の時、三

十名にも及ぶOB会員の集った席上、嘉納氏より山小屋建設運動の主旨説明があり、前

報記載の奥只見の話を中心に討

議の結果、山行、スキーの出

来て溜り場となる様な山小屋

を、皆持ちたいとは考えてい

るので、奥只見は諸々の条件

で一応御破算にした上で、新

たにOB会で山小屋建設の可

能性を調査する為の準備機関

を作り、嘉納、米屋、井上、

郡司を委任した。

一方現役は既にYWU創立

十周年記念を目標に山小屋建

設の為の会合を独自に持って

いたので、両方の委員間で共

同に調査活動を行なう事とし

た。

そこで第一回合同会合を十一

月二十九日横浜にて開催し、

山小屋建設準備委員会を新発

足させた。出席者、嘉納、米

屋、吉野、郡司、久野、奥野。

席上現役より他大学 W V

部へ出した山小屋に関する調

査の回答が示された。

参考までに関東学院大の群

馬泉元橋の山小屋について記

すと、収容人員四十五名（

建坪三十六平方米）の二階建

てで、費用は概算百万円であ

る。

次いで第二回目の会合を今

年三月十九日横浜で開催。出

席者、嘉納、米屋、井上、

郡司、久野、菅谷、東田、

畑中、森。

現役の考えた候補地の現地

問合せの結果を検討したが、

好条件の話はなかった。そこ

でこれ迄の資料をまとめて、

三月二十八日に現役、OB総

々会を開き討議する事とした。

三月二十八日OB会に於て

は設立の時期は必ずしも創立

十周年記念に拘泥しない条件

で山小屋建設を行なう事に決

定した。

一方総々会では資料を基に

討議の結果態度未定の現役総

会に対して、山小屋建設の要

請を決議した。

四月十八日現役は総会を開

き、山小屋建設を認め、委員

に林、久野、服部、奥野、白神

須藤、東田、森、畑中を選出した。

今後現役、OB一体となっ

て山小屋建設の為の現地調査

等も行ない、場所、資金等具

体的案を作成して会員諸氏の

御意向を問う方針であります。

そこで現役の作成したアンケ

ートを送付しますので、横浜

国大嘉納宛是非回答をお寄せ

下さい。どうか会員諸氏の御

意見を多数お知らせ下さる様

お願い致します。

以上

編集後記

新たに会報編集局が発足し

た御蔭で少なくとも年四回の

会報を発行する事に相成った。

公私共に大多忙のワレラ、

茶室に入りてゆっくり茶の湯

を楽しみ、山に入りて、のん

びり山の湯を楽しむ事も、能

わざるワレラ。でも心に

はゆとりをもつて、編集をも

また楽しむことに心がけなけ

ればならず。

イヤー!! マイック!

マイック!!

OB会報第三号

編集責任者 吉野、米屋

発行責任者 松本正雄

印刷 横浜市南区前里町

（梅鈴木タイプ）